

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のかくかくドドド立ててくさ

国立市立国立第七小学校

平成30年1月31日 NO.94 (494)

オー君 「おー寒い、寒い！」

花ちゃん 「本当に寒いわね。風もとても冷たいわね。早く春がこないかな。」

モンタ博士 「お！どうしたの。子供は風の子！元気を出して！といっても寒いかな。」

オー君 「そうですよ。寒いですよ。虫たちもみんな冬は動かさず静かにしています。」

花ちゃん 「校庭の木もすっかりと葉っぱを落として冬の姿です。」

モンタ博士 「そうだね。サクラの木も枝を残しているだけだね。」

オー君 「サクラは枯れてしまったのかな。」

モンタ博士 「そうではないよ。枝の先を見ると丸いものがあるよ。」

花ちゃん 「これを冬芽というのですね。」

モンタ博士 「よく覚えていたね。さすが花ちゃん。」

花ちゃん 「サクラは、たくさんの皮をつけて、寒さに負けないのよ。」

オー君 「つまり、『重ね着タイプ』というわけだね。」

花ちゃん 「それから、コブシやモクレンは、毛をいっぱいつけてるわ。」

オー君 「つまり、『セータータイプ』というわけだね。」

花ちゃん 「それから、ヤナギやホオノキは、1枚の皮だけど、

厚い皮でがっちりガードしていて温かそうね。」

オー君 「つまり、『革ジャン・ベンチコートタイプ』みたいだね。」

モンタ博士 「花ちゃんはよく覚えていてくれたね。うれしいね。」

それから、オー君は冬芽のたとえがとてもうまいね。

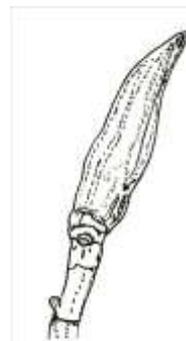
さすがだね。感心だね。」

花ちゃん 「ほかにもいろいろな冬芽があるんですよ。」

モンタ博士 「そうだね。芽のまわりにべたべたするようなものを

つけるものもあるし、すっぽりと帽子をかぶるよう

なものもあるし、みんなそうやって、冬の寒さや



乾燥^{かんそう}から、命^{いのち}を守^{まも}っているんだよ。」

花ちゃん 「いろいろと植物^{しょくぶつ}なりに、様々^{さまざま}な工夫^{くふう}をして冬^{ふゆ}を乗り越^こえているんですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。どんなに厳^{きび}しいことがあっても一^{いっしょうけんめい}生懸命^{せいけんめい}に生^いきている植物^{しょくぶつ}
の姿^{すがた}から、いろいろと学^{まな}ぶことも多^{おほ}いね。

オー君 「どういことですか。」

モンタ博士「そうだね。冬^{ふゆ}は寒^{さむ}くてがまんしなくてはならないだろう。でも、その冬^{ふゆ}を乗^の
り越^こえた時^{とき}に、待^まちに待^まった春^{はる}がくるといことなんだよ。」

花ちゃん 「そうですね。つらいことや大^{たい}変^{へん}なことは『冬^{ふゆ}』といことですね。それを耐^たえ
ていくことにより、楽^{たの}しくうれい『春^{はる}』が来^くるといことですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。それでは、今^{いま}からクイズだよ。下^{した}のカードを並^{なら}びかえて
言葉^{ことば}を作^{つく}ってごらん。モンタ博士のとても好^すきな言葉^{ことば}になるんだよ。」

る ら な る ふ と
ゆ は は ず か

ならびかえると・・・ ならびかえると・・・

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

花ちゃん 「うーん。むずかしいわ。なんだろう。」

オー君 「ほんとうにむずかしいね。」

モンタ博士「ヒントはね、季節^{きせつ}だよ・・・。」

花ちゃん 「あ！『ふ』と『ゆ』で冬^{ふゆ}になる、『は』と『る』で春^{はる}になるわ。」

モンタ博士「だんだんわかってきたかな。」

花ちゃん・オー君「わかりました。『冬^{ふゆ}はかならず春^{はる}となる』ですね。」